

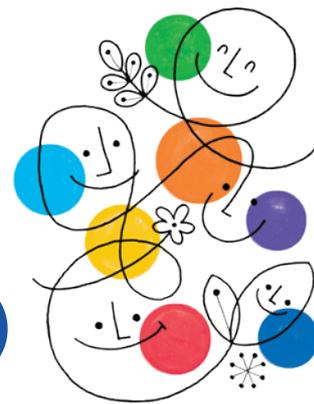


一般社団法人 ぎふ総合健診センター

# ぎふ総合健診センター

VOL.18 Spring 2023

だより



## フィットテスト 始まりました

フィットテストの測定に用いる  
測定装置を新規整備しました

金属アーク溶接等作業中に発生する「溶接ヒューム」について、労働者に神経障害等の健康障害を及ぼすおそれがあることが明らかになり、労働安全衛生法施行令、特定化学物質障害予防規則（特化則）等が改正・告示され、令和3年4月1日から施行・適用されたのは記憶に新しいと思います。

この「金属アーク溶接等作業」とは、「金属をアーク溶接する作業」「アークを用いて金属を溶接し、又はガウジングする作業」「その他の溶接ヒュームを製造し、又は取り扱う作業」を言います。これらの作業より発生する溶接ヒューム（粒子状物質）が、人に対する発がん性や溶接ヒュームに含まれる酸化マンガン（ $MnO$ ）や三酸化二マンガン（ $Mn_2O_3$ ）が神経機能障害、呼吸器系障害を引き起こすことが明らかになりました。

さらに金属アーク溶接等作業を継続して行う屋内作業場において当該作業に従事する労働者は、呼吸用保護具を適切に装着できていることを確認

するため、「フィットテスト」を令和5年4月1日より1年以内ごとに1回実施することが義務付けとなりました。

フィットテストには「定量的フィットテスト」と「定性的フィットテスト」があります。

定量的フィットテストは、マスクの接顔部からの漏れ量について測定装置を用いて数値として測定する方法であり、半面形面体と全面形面体の両方のマスクについて測定が可能です。定性的フィットテストは、マスクを着用しているときに試験物質を感覚（味覚、臭覚など）によって感じるか否かを調べる方法であり、半面形面体のマスクのみ測定が可能です。当センターでは、定量的フィットテストが実施可能な測定装置を新規整備しました。また、当装置は標準の定量的フィットテストの他に測定時間が標準に比べて約3分の1に短縮できる短縮定量的フィットテストも実施可能です。

呼吸用保護具は顔に密着していなければ最適な性能を得られません。フィットテストを実施することで労働者が溶接ヒュームによる健康障害を防止できるように取り組みます。

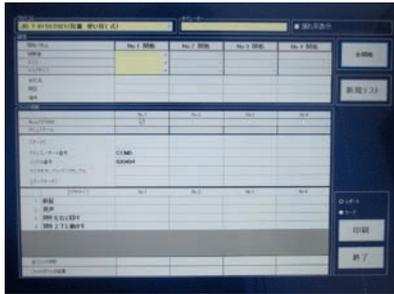


〈表紙より〉



測定器本体(写真中央)にて粉じん量を測定します。透明チューブを防護マスクに接続し、外部粉じん量とマスク内部の粉じん量を測定し、マスクのフィットファクタを算出します。

パソコンにてフィットテストの結果を集約し結果報告書へ出力します。結果は3年間保存する必要がありますので、破棄や紛失には十分気を付けてください。



## どんな人がフィットテストを実施できるか？

厚生労働省より通達されている教育実施要領に基づくカリキュラムを終了している人であることが望ましく、5時間程の研修を受ける必要がありますが、十分な知識及び経験を有していれば、事業者自身が行うことも可能です。

## どんな時にフィットテストが必要か？

フィットテストは年に1回行うことが義務付けられていますが、以下のタイミングで実施することが効果的です。

1. 新しいマスクを使用するとき
2. 新しい作業者が入ったとき
3. 顔の大きさに変化があったとき(体重増減など)

お問い合わせ先

一般社団法人ぎふ総合健診センター  
TEL: 058-279-3399  
環境測定課

## 人間ドックオプション検査

# OCTを (光干渉断層計) 導入しました

OCTとは「OPTICAL COHERENCE TOMOGRAPHY」の略で、光の干渉現象を利用して、ものの立体構造を観察することが可能な装置です。この装置を目に使用すると、簡易に目の奥の網膜などの断層面を観察でき、緑内障や黄斑疾患などの眼の疾患の早期発見・精密な検査が可能です。

検査は、これまでの眼底検査と同時に行い、眼底写真ではわからない目の奥の立体的な変化を確認できます。瞳の開きが不十分などの理由で眼底写真が写りにくい方でも検査は可能です。短時間で検査は終了し、目に触れることがありませんので痛みもありません。

## 失明につながる重大な眼疾患に…

高齢化が進むに伴い、視力低下や眼病を患う方が増えています。特に眼の三大疾患と言われる「緑内障」「糖尿病性網膜症」「加齢黄斑変性」は失明につながる恐れもあり、早期発見・早期治療が望まれます。OCTでより正確に早期発見が可能となります。

特に「緑内障」は、目の奥の視神経が障害を受け、視野が狭くなっていく病気で、最悪失明にもつながります。今、40歳以上の20人に1人が緑内障と言われ日本人での失明原因の第1位の病気です。

## こんな症状がある方は、一度OCT検査を受けましょう



- 最近、新聞や本の文字が読みにくくなった
- 目が疲れやすい
- 遠視や強度の近視がある
- パソコン画面を見つめている時間が多い
- 家族に緑内障などの眼の病気の人がいる
- 40歳以上の方



緑内障の見え方



撮影の様子

通常の眼底写真撮影と同様に専用の台にあごを乗せ、装置内部の青い光を見ていただきます。  
検査は片眼ずつ行います。  
非接触の検査ですので、撮影による痛みや眩しさもなく検査実施後も制限はありません。



液晶画面で楽々操作可能

装置はセミオート操作となり、液晶タッチパネルを使用し誰にでも優しく操作が可能となっています。  
撮影時間も眼底写真撮影と変わらず、受診者への負担もありません。



装置全体像

人間ドックお申し込み先

一般社団法人ぎふ総合健診センター  
施設健診グループ  
TEL: 058-279-3373

マスクの着用は、「2023年3月13日より個人の判断で」と政府が決定

## 当センターは、「健診実施時のマスク着用」を継続します

政府は、2023年2月10日に新型コロナ対策としてのマスク着用について、3月13日から屋内・屋外を問わず個人の判断に委ねる方針を発表しました。

その上で医療機関を受診する際や通勤ラッシュ時といった混雑した電車やバスに乗る際には、マスクの着用を進める方針を決定しました。また、同様の内容で岐阜県からもマスク着用の考え方について発表されています。

これを踏まえ、当センターで実施する健康診断においては、健診受診者の方々及びセンタースタッフが、安心・安全に検査を受診・実施できる環境を保つため、これまでと同様に新型コロナウイルス感染予防のため「健診実施時のマスク着用」を継続いたしますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

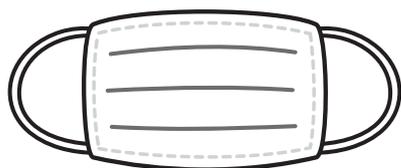
### 厚生労働省より

マスクについては場面に応じた適切な着脱をお願いします。

### マスク着用が効果的な場面

- 医療機関を受診
- 医療機関・高齢者施設などを訪問
- 通勤ラッシュ時などの電車・バス

### マスク着用



ご協力をお願いします。

症状がある人や感染者本人、同居する家族に感染者がいる人は、周囲に感染を広げないため外出を控え、通院などでやむをえず外出する場合は、人混みを避けマスクを着用するよう求めています。

### 屋外

- 季節を問わず、マスク着用は原則不要です。
- 人との距離(めやす2m)が保てず、会話をする場合は着用をお願いします。
- 徒歩や自転車での通勤・通学など、人とすれ違うときも不要です。
- 距離を保って、会話をする際マスクは不要です。

### 屋内

- 距離が確保でき会話をするほとんど行わない場合を除き、マスクの着用をお願いします。
- 距離が確保できず、会話をするときは着用します。
- 人との距離(めやす2m)が保てて、会話をほとんど行わない場合は着用の必要はありません。
- 十分な換気など感染防止対策を講じている場合は外すことも可能です。

基本的な感染対策は、メリハリをつけましょう。高齢の方に会うとき、病院に行くとき、通勤ラッシュ時や人混みの中では、マスクを着用しましょう。